

第6回 熊野川懇談会

参考資料 3

提 供 資 料 集

< 一般の方からのご意見 >

( 公開の確認をいただいた方の意見のみを掲載させていただいております。 )

提供者	紀宝町 星谷良戈 様
<p><u>同級生で作家の故新宮正春君が、一昨年学研社から発行の「にっぽん川紀行」20号に、小学生のころ熊野川で潜ってカン拾いをしたこととか、高校生時代に熊野川を川舟で遡行した話を掲載した。</u></p> <p><u>このキャンプには私も同行し、雨上がりの熊野川を、ロープを肩にかけ川原を交代で四つん這いになって漕ぎ峡まで舟を引張り上げた。</u></p> <p><u>出発時には少し水嵩があり、それでもほんの薄にごりで、宮井の合流点では十津川流域からの流れだけが茶色く濁ってはいたものの、漕ぎ峡側の北山川流域はかなりの深みでも川底が見える程澄んでいた。</u></p> <p><u>そしてわずか二泊しての帰りには熊野川全体が透明度の高い清流となっていた。計画よりも大変なキャンプとなったが、それもトムソーヤ気分だったと表現している、青春の貴重な思い出である。</u></p> <p><u>あれから五十有余年、私は毎日通勤の為熊野川を渡り、熊野大橋の上から流れを眺めているが、今では川底がすっきりと見えることがない。長い年月の間に環境の変化は致し方ないとしても、水質だけでも今の内に取り戻せないかと願っている。</u></p>	

提供者 新宮市 田中 旬子 様

以前、熊野川懇談会へ発言のチラシを添えて下さりまして  
感謝申し上げます  
熊野川の一面に文化という大切な切り口があると考えます  
佐藤春夫の市歌にもござりますとおり 熊野の都新宮市で  
ある事には再び、熊野川を「道」として中心に据えて見ると  
よく判ると考えます。和歌山県、三重県に ちん切られ、鉄道も  
又、西日本と東海に別けられ 電力も又しかりせず こうして  
熊野川を堺にして切り続けた結果、熊野は、隈とばかり  
争奪は終にたり 衰退の道にたどっているのだと思っております  
今度の、安部政権が出発した、「道、州制」と言う  
ことは、活字に出て来出しましたが、道州制を導入される  
時には、今度こそ熊野川で ちん切らず、三重県も  
含めて、紀の国の半島をひとつに括りゆく事で「隈が」  
隈つこにばらずに済むと考えます  
文化も 経済も 沈滞の原因は、ここにあると存じて  
おります

提供者 御浜町 浦地輝男 様

熊野川といえはダムが出来て以来大きな被害は  
なくなりました。ダム以前は年に、2.3回位大水  
害となり十津川より莫大な木材が流出されるのを  
おぼえて居ります。つきましては、趣旨からは少しすい  
るかと思いますが、熊野川町棕呂、十津川発電所  
が河川敷に通じる道路、数十年あまで、西敷屋方面から  
棕呂の渡舟で国道を通る県道でした。  
数年先の水害で決壊され四輪駆動車でも四芯  
八芯して居ります。鮎釣人が毎日利用して居ります  
方が、緊急事態の場合速急車も入れません。  
何とかの配慮をお願い致します。

H.18.10.2